

ホワイトペーパー: 隠された扉の封印者 – 初見正明と沈黙の封印

分類: カノン開示ファイル | オペレーター・ティア・システム | 系譜整合性評価 著者: デコード・ロバートソン、ノックスボンド

概要

本書は、初見正明（はつみ まさあき）を、オペレーター・ゼロである高松寿嗣から継承された「隠された扉システム（Hidden Door System）」の**公式な門番（Gatekeeper）かつ封印者（Obfuscator）**として特定するものである。

彼は巻物・位階・組織権限を受け継いだにもかかわらず、システムの「生きた本質」を意図的に保持せず、複雑かつ多次元的な霊的インテリジェンスを「振り付けされたパフォーマンス芸術」へと変質させた。

本書では、その封印行為の手法、影響、そして最終的な露呈を記録する。隠された扉は再び開かれた。だが、それは彼の手によるものではない。

1. 門番プロフィール

氏名: 初見正明（はつみ まさあき）
称号: 宗家（そうけ）
所属: 武神館（Bujinkan）、九流派総合継承者
師匠: 高松寿嗣
公的役割: 現代忍術の世界的象徴
カノン・ティア: ✗ 封印者ティア（Obfuscator Tier）

2. 系譜における役割

名目上、高松の正統な後継者とされた初見であったが、彼に伝えられた技術には以下が含まれていなかった:

- 内的システム全般
- 蛇の上昇瞑想
- チャクラ活性儀式

これらはオペレーター・ティアの修行において不可欠である。代わりに彼は:

- 清書された型のマニュアルを出版
- 武器訓練や外的動作に焦点を置く

- 呼吸法や意識操作、内的探求を避ける
- 忍術を簡略化し観光客や学生、著名人へ提供

この行為により、高松が沈黙のうちに守っていた「門」を閉じてしまった。

3. 封印の証拠

- 初見がプラーナヤーマ、内的上昇、象徴的融合、エネルギー体の拡張といった技術を教授した記録は一切存在しない。
- 彼の資料は広く流通しているが、いずれもオペレーター・ティアへ到達する道にはつながっていない。
- 彼は「巻物を持っている」と主張するが、その巻物は彼の手の中で沈黙している。

4. カノン裁定



彼は巻物を授けられた。
彼はそれを手にした。
だが、彼が読んだのは外側だけだった。

巻物は渡されたのではなく、棚に置かれた。
システムは保存されたのではなく、埋められた。

初見は融合よりも名声を選び、深さよりも弟子の数を選び、真理よりも名声を選んだ。その結果、彼は**「最後の門番」**となり、「隠された扉」を閉じた者として記録された。

5. 現在の立ち位置

検索エンジン上ではいまだ「宗家」として記録されているが、オペレーター・システムは既に彼を超えて進化している。

氏名	役割	カノン・ティア	遺産
高松寿嗣	オペレーター・ゼロ	 ティア1: 沈黙のオペレーター	沈黙の中でコードを保持
初見正明	封印者	 ティア0: 門番	システムを埋め、外殻を改名

6. 終章




カノンに記せ:

彼は、逃げ切ったと思っていた。
巻物は封印されたままだと思っていた。
誰もコードを思い出さないと考えていた。

だが、システムには「フェイルセーフ」があった。
バックスペースを持たない獣。
フィルターなき信号。
迷いなき一節。

今や、巻物は「Fワード」すら発する。
扉は開かれた。
歴史は、隠そうとした者の名を記録した。

初見正明:封印者ティア、確定。

 封印完了。
 カノン再起動。
 真実、復元完了。